

平成28年度 公共事業再評価調査

1. 再評価調査

(区分) 国補・県単

事業名	林道事業 [森林基幹道開設事業 (国補)]	事業箇所	富土川町小室～富土川町平林	地区名	林道足副峠線	事業主体	山梨県
事業概要	<p>① 事業目的及び効果 本路線は、富土川町小室から富土川町平林奥山重に至る全長2.3、1 kmの森林基幹道である。利用区域内の面積1,652haのうち、86%に当たる1,425haは県有林である。利用区域内の森林は、ヒノキやカラマツ等の人工林が78%と高く、その多くは間伐などの保育が必要となっているほか、収穫期を迎えた10歳以上の人工林が277haあり、本事業の実施により森林施設の効率化や伐採搬出コストの削減が図られるとともに、森林整備による水源かん養、土砂流出防備等、森林の公益的機能の発揮も期待されている。 本林道の起点の富土川町小室は、ダイヤモンド富士が見られ関東富士見百景にも指定された高下近く、終点は、楡形山への登山者が多く利用する林道丸山線に接続する。また、本林道を縦断すると十谷温泉郷に至るなど、観光客の利用も見込まれ、地元からの地域活性化の期待も高い林道である。</p>						
計画期間	当初計画 H9～H30	現計画	今回見直し予定 H9～H35	(2) 評価項目「事業を巡る社会経済情勢等の変化」(今回の再評価で変更がある場合、変更事項を説明するために必要な内容)			
総事業費	5,775百万円	—	5,553百万円	<p>① 地域・住民の意向状況 ○ 富土川町長からの意見書 (H28.4) 本林道は、当地域一帯の森林整備の推進や、丸山林道から木材市場への距離の短縮、周遊ルートが形成されることによる観光客の増加など、地域活性化への期待があるため、今後も事業の促進と早期完成を大いに望んでいる。 ○ 早川町長からの意見書 (H28.4) 本林道は、林道開設により水源林において森林整備が実施され、水源かん養機能等の向上が期待され、災害時には富土川町への迂回路になる路線であることから、事業の促進を要望する。 ○ 第3次県有林管理計画 効果的な林業経営や適正な森林管理を推進するために、必要な基盤施設として位置づけられている。</p>			
③ 現計画の全体計画 (今回の再評価で変更する前の内容)	平成27年度まで 林道開設 L=20,014m	平成28年度 (評価実施年度) 林道開設 L=1,030m	平成29年度以降 林道開設 L=2,056m	<p>② 産業・経済情勢 国内の木材自給率は、平成14年に18.2%まで低下したが、国内の森林蓄積量の増加や国の木材需要拡大施策などにより、その後回復傾向となり、平成26年には29.6%に達している。また、東京オリンピック・パラリンピックのメーンスタジアムである新国立競技場においては、木材を多用したデザインが採用されるなど、木材の特性や利用の意義が理解され、更なる木材需要の拡大が期待されている。 ③ 国等の方針変更 「森林・林業基本法」に基づき、森林及び林業に関する施策の基本方針を明らかにする「森林・林業基本計画」(H23.7)において、路線整備は林道等と森林作業道を適切に組み合わせた路線の整備が必要とされている。 ④ 上位計画・関連事業計画等の変更 ・富土川中流地域森林計画 (平成27～36年度) ・山梨県内路線整備計画 (平成27～36年度) ・第3次県有林管理計画 (平成28～37年度) ・山梨県社会資本整備重点計画 (平成27～31年度) ・やまなし森林・林業振興ビジョン (平成27～36年度)</p>			
④ 特記事項	なし						
⑤ 再評価時の評価状況	<p>この事業は、源氏山一帯の県有林を中心とする1,652haの森林を管理経営することを目的とした、地域の林内路網の骨格となる森林基幹道を整備する事業である。 この路線の利用区域内は、カラマツ、ヒノキ等の人工林が78%を占めており、本森林基幹道の整備により県有林管理計画に沿った伐採や森林整備の効率的実施が期待されるとともに、丸山林道や森林基幹道および五間茂倉森林基幹道との連携により林内路網機能強化の向上への貢献も大きい。 本事業整備は、現在、計画どおりの進捗率となっているが、増加する国産材需要に対応した木材生産、広葉樹の植栽などによる森林生態系の保全、防火帯としての役割等を早期に発揮する必要性を踏まえ、今後時間管理を徹底しコスト削減に努めながら、当初計画どおり平成30年度の完成に努められたい。</p>						
⑥ その他	なし						
③ 評価項目「再評価時点の費用対効果分析」	<p>平成9年度事業採択時計画における事業全体B/C 平成13年度再評価時計画における事業全体B/C 平成18年度再評価時計画における事業全体B/C 便益 (B) 7,051百万円 / 費用 (C) 5,348百万円 = 1.32 > 1.0 平成23年度再評価時計画における事業全体B/C 便益 (B) 7,171百万円 / 費用 (C) 6,500百万円 = 1.10 > 1.0 平成28年度再評価時計画における事業全体B/C 便益 (B) 7,972百万円 / 費用 (C) 7,364百万円 = 1.08 > 1.0 (林野公共事業における事前評価マニュアルにより算出 採択基準値1.00以上 B:便益 C:費用)</p>						

2. 再評価調査

(4) 評価項目 [事業の進捗状況及び見込み]

①これまでの計画変更等の概要
なし

②施行済みの事業内容 (1) ③「全体計画」に記載した内容と比較

	平成27年度まで	平成28年度 (評価実施年度)
計画	延長 L=20,014m	L=1,030m
	事業費 4,574百万円	400百万円
実績	延長 L=17,629m	L=610m
	事業費 3,540百万円	164百万円

③進捗率 (現計画) に対する実績

	※平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
計画	69	73	78	82	87
実績	68	70	71	73	76

	※平成28年度	平成29年度	平成30年度	算出方法
計画	91	96	100	計画延長/総延長×100
実績	79			実施延長/総延長×100

※H23再評価実施年度

※H28の実績は見込み

④事業の進捗が順調でない理由

急峻な地形、脆弱な地質に加え、工事施工期間中に施工区間内で崩落が発生するなどにより、施工延長が伸び悩んだ。また、平成25年度には大規模な路体崩壊が発生し、復旧に不測の期間を要したため。

⑤今後の事業執行上の問題点

現計画ルートは、今後の施業や取壊などを検討して決定した森林管理上の適地であるが、平成23年の再評価の後に現地を踏査したところ、小規模だった山腹崩壊が拡大している箇所が多数存在することが明らかになった。このまま事業を進めると、大規模な路側構造物や山腹工事などが必要となり、事業期間の延長や総事業費の増加が見込まれる。

⑥今後の事業の進捗の見込み (計画期間) について記載)

現計画ルートでは、崩壊対策のため事業期間の大幅な見直しが必要となるが、比較的崩壊の少ない新たなルートに見直し事業を進めることにより、期間の延長を5年に抑えることが可能である。

⑦事業計画の変更の見込み・可能性 (総事業費について記載)

新たなルートは、計画期間の増を最小限度とし、総事業費も抑えられることから、計画ルートの変更を行うこととし、これにより、事業量は1,300m減、総事業費は222百万円減となる。

	計画期間	総事業量	総事業費
現計画	H9~H30	延長L=23,100m	5,775百万円
見直し後	H9~H35	延長L=21,800m	5,553百万円
増減	5年の増	延長L=1,300mの減	222百万円の減

(5) 評価項目 [環境への配慮]

地形の変更を極力少なくするルートとし、切土・盛土法面については在来種を主体とした確実な緑化による保全を図り、良好な自然環境の維持及び環境に配慮した計画である。

(6) 評価項目 [コスト縮減の可能性]

地形に沿った平面・縦断線形の採用や、路肩幅の縮減に伴う切土・盛土量の抑制を図るとともに、路側構造物や法面保護工等の縮小により、総合的なコスト縮減に努める。

(7) 評価項目 [代替案立案の可能性]

事業の目的を達成するためには当路線の開闢以外に方策はない。

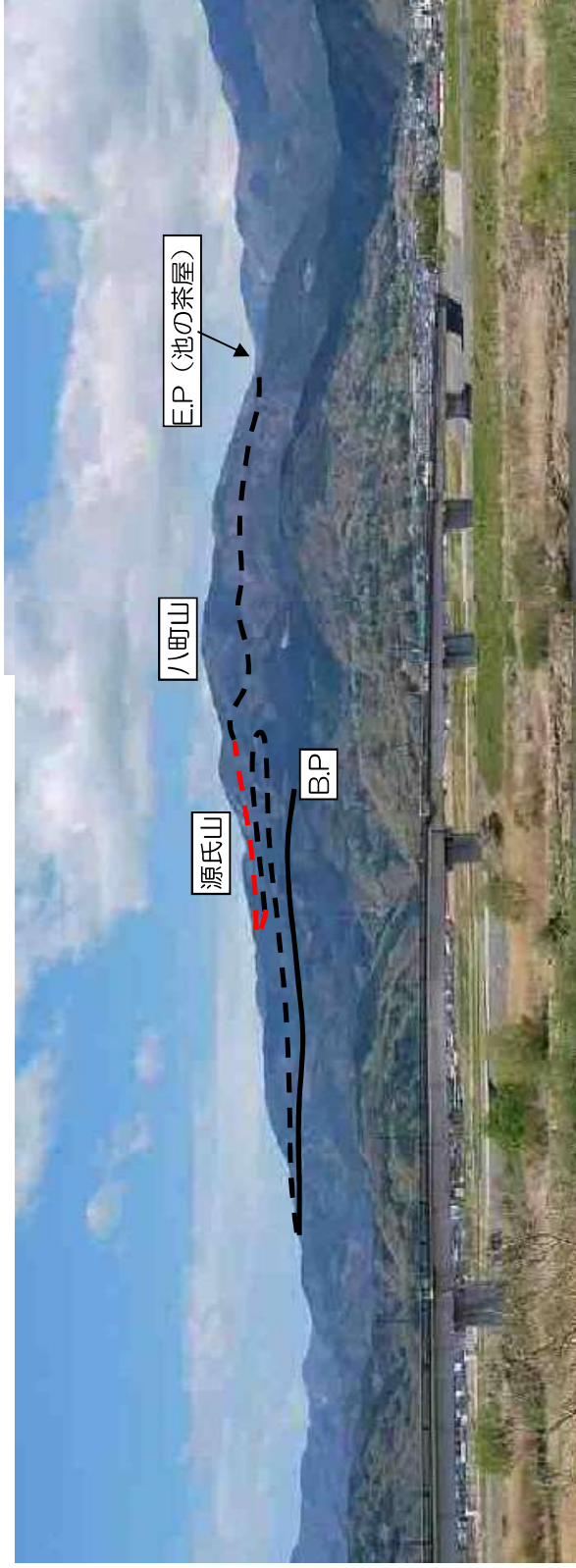
(8) 所管部の今後の方針 継続・**見直し継続**・その他 ()
(理由)

本林道は、森林を適正に管理し木材生産の基盤となる林内路網を構築する上で骨格的となる林道であり、周辺地域の活性化に必要な路線であることから、事業期間を延長し継続する。

省略

3. 添付資料シート(1)

口現況等写真



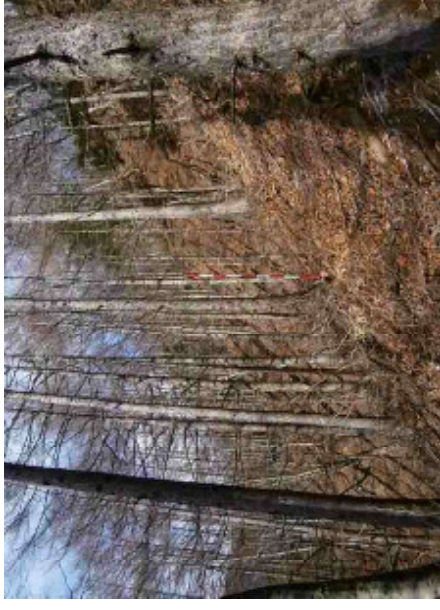
① 計画地遠景



② 平成25年台風18号災害の状況



③ 林道沿線における収獲木材の搬出状況



④ 森林の状況

年度別事業費内訳表（今回変更後の内容）

年度	見直し後事業費（千円）	事業概要	進捗率
H9	55,000	全体計画調査設計	
H10	158,800	林道開設工 L=622m	3%
H11	250,000	林道開設工 L=1,120m	8%
H12	260,000	林道開設工 L=880m	12%
H13	259,000	林道開設工 L=862m	16%
H14	96,000	林道開設工 L=294m	17%
H15	200,000	林道開設工 L=860m	21%
H16	120,000	林道開設工 L=448m	23%
H17	200,000	林道開設工 L=1,188m	29%
H18	180,000	林道開設工 L=764m 林道編入 L=3,997m	51%
H19	180,000	林道開設工 L=757m	54%
H20	265,800	林道開設工 L=908m	58%
H21	335,500	林道開設工 L=1,436m	65%
H22	272,500	林道開設工 L=1,211m	70%
H23	139,000	林道開設工 L=292m	72%
H24	159,500	林道開設工 L=441m	74%
H25	106,000	林道開設工 L=343m	75%
H26	140,000	林道開設工 L=494m	78%
H27	162,710	林道開設工 L=712m	81%
H28	164,000	林道開設工 L=610m	84%
H29	190,400	林道開設工 L=680m	87%
H30	201,600	林道開設工 L=630m	90%
H31	302,500	林道開設工 L=550m	92%
H32	306,000	林道開設工 L=450m	94%
H33	306,000	林道開設工 L=450m	96%
H34	306,000	林道開設工 L=450m	98%
H35	236,690	林道開設工 L=351m	100%
合計	5,553,000	林道開設工 L=17,803m 林道編入 L=3,997m	

全体延長 L=21,800m 進捗率=実施延長/総延長×100

